

四国健康ナビ

徳島大大学院 運動機能外科学(整形外科)
東野 恒作助教

頸椎症性脊髄症は薬か手術で

「頸椎症性脊髄症」 「薬で治せる」 「手術で治せる」 「どちらが適切か」 「どちらが原因か」 「内臓に訴えられる」「内臓からの疼痛を脳に伝える」といった問題が、脊髄症と呼ばれる疾患の特徴です。この問題は、脊髄症の治療において最も重要な問題であり、その解決は、多くの脊髄症患者にとって大きな希望となります。

脊髄症の治療には、薬物療法と手術療法があります。薬物療法では、抗炎症薬や神経痛薬などの薬を使用して、痛みや不快感を緩和します。一方で、手術療法では、脊髄の圧迫部位を削除するなどして、神経組織の正常な機能回復を目指します。

どちらの治療法が適切かは、個々の患者の状況によって異なります。薬物療法が効果的でない場合や、薬物療法では対応できないほど重症な場合は、手術療法が選択されることがあります。また、手術後も薬物療法による管理が必要な場合もあります。

脊髄症の治療は、複数の医師による多科連携での治療が一般的です。専門的な知識と経験を持つ医師たちが、患者さんの状態を見ながら、最適な治療方針を決定します。

最後に、脊髄症に対する理解を深めることの大切さを強調します。脊髄症は、非常に複雑な疾患で、正しい知識と情報収集が治療の第一歩です。また、家族や周囲の人々とのコミュニケーションも、患者さんの回復に大きく影響します。

以上が、頸椎症性脊髄症に対する薬物療法と手術療法についての概要です。実際の治療は、個々の状況により異なるため、必ず医師の診断と相談をお願いします。

（東野 恒作助教）